

永平寺 親禅の宿 柏樹關：施設概要

柏樹關は、永平寺と娑婆との境に文字通り、象徴的に存在するホテルである。豪華なホテルの環境の中で禅にまつわる各種の体験と活動が同時に経験できる空間づくりを目指して 2019 年に建てられた。宿泊客は坐禅に参加したり、お寺での朝のお勤めに参加したり、高級な精進料理を満喫したりして、一日の終わりを快適なホテルスタイルの宿泊施設でくつろぐことができる。

永平寺と永平寺町、福井県が共同で運営する大規模な再生プロジェクトの一環として、2019 年にオープンした。旅館はその魅力を親禅（しんぜん）と表現している。それは「善意」を意味する言葉であり、「禅に近づく」と解釈することもできる。この禅との密接なつながりは、柏樹關の構造にも表れている。その建設に使用された杉の木の多くは、永平寺の森林から伐採されたものである。

ゲストがロビーに入ると、吊り下げられた大きな魚鼓（ぎょこ）、体は魚の形で、頭は龍の形をした木製の彫刻が迎えてくれる。柏樹關の魚鼓は、以前は永平寺で使われていたものである。その目は常に見開いていて、警戒心が強く、僧侶たち（今では宿泊客である）に日々の修行が注意深く見られていることを思い起こさせている。魚鼓は木槌で打たれ、食事や修行の始まりを告げる。

玄関右手に畳敷きの多目的スペース「開也の間」がある。開也の間は宿泊客の坐禅や永平寺から僧侶を招いて座談会などでよく利用されている。外壁の 1 つは、苔に覆われた石庭が望めるように開き戸になっている。玄関左側の受付近くにある小さな図書室には、禅宗の歴史、永平寺、坐禅修行などの多言語の資料が収蔵されている。

1 階にある食事処「水仙」は、仏教のベジタリアン料理である精進料理を専門としている。調理長は永平寺の典座から適切な調理法を教えてもらい、伝統的な旅館でよくみられるフルコースの懐石料理を提供している。水仙で提供される食事は、精進料理の原則にのっとっているが、永平寺内の厳格な料理では使用されない酒や肉などの食材を含む幅広い地元の珍味を楽しむことができる。

食事処に通じる廊下には、日本の曹洞宗の開祖である道元禅師（1200–1253）の生涯を描かれた画廊があり、また、季節にあわせた禅画が展示されている。また、小さな売店があり、伝統的なお菓子や漆の箸などのお土産を買うことができる。

2 階と 3 階には和風と洋風を取り入れてデザインされた 18 室の広い客室がある。柏樹關は、全室がホテルに沿って流れる永平寺川に面するように設計されている。部屋はすべて花にちなんで名付けられ、各部屋の床の間には、増田洋一郎画伯（1981-）による花の絵画が飾られている。花は、永平寺の傘松閣（さんしょうかく）の格間天井を飾る 230 点の絵画の中から選ばれた。

越前地方（福井県）は伝統工芸品の品揃えで有名で、部屋にはこの伝統品がたくさん飾られている。ベッドの上の大きな作品は越前和紙で作られ、流しやカップは地元の陶器である。周辺エリアには多くの工房があり、宿泊客はこれらの伝統工芸品の製作体験もできる。

ホテルの各部屋には洋式のシャワー室があるが、永平寺での一日は温浴で締めくくることが最高である。ホテルの 2 階には大浴場の「香水海」（こうすいかい）があり、男風呂、女風呂に分かれている。男女風呂ともに内風呂と露天風呂が備わっている。真冬でも、蒸し風呂は、永平寺川の水音と遠くから聞こえる寺院の鐘声が聞かれる、暖かく静かな場所である。